

登録コード	EKF17900	開講年度	2026						
授業科目	算数・数学科指導案構築演習				担当教員	茅野 公穂 他			
英文授業名					副担当	昆 万佑子・松澤 泰道・佐久川 憲児・榎本 哲士			
単位数	1	講義期間	前期(前半)	曜日・時限	火曜・2時限		履修学年		
講義室			授業形態	演習	備考				
信大コンピテンシー	該当								
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】				⇔	【授業の達成目標】			
	2 6 E A カリ, 2 5 E A カリ, 2 4 E A カリ								
	教育の専門職としての学識・技能				⇔	数学教育の専門職としての学識・技能			
(2)授業の概要	演習方式で、算数・数学科教育学の専門性に裏付けられた初等・中等教育における授業実践に向けての学習指導案構築に関わる各自の研究課題について、先行研究や先行実践に位置付けながら各教科の授業実態に基づいて設定までの背景や問題の所在を中心に、発表をおこない、質疑応答・討議する。 担当教員が中学校教諭あるいは高等学校教諭の実務経験を活かして講義を行う。								
(3)授業計画	第 1 回：算数・数学科教育に関する先行研究と先行実践の成果と課題を踏まえた各自の研究課題に基づく学習指導案構築に向けた課題設定（事例提示）。 第 2 回：学習目標・評価方法・評価手段・授業展開についての理論 第 3 回：学習指導案と単元シラバス・年間シラバスの検討 第 4 回：題材・教材の検討 第 5 回：構築した学習指導案についての議論（工夫した点とその教育的な意義） 第 6 回：改善した学習指導案についての議論（議論を踏まえての改良点） 第 7 回：成果のまとめと研究課題解決のための構想（レポート提出） ※各回とも教員 5 名による TT で指導をする（分担，単独等は適宜対応）。								
(4)成績評価の方法	・各回の発表内容（40％），質疑応答・議論の内容（20％），およびレポート（40％）によって評価する。 ・評価割合は，若干の調整をおこなうことがある。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀，89-80％ 優，79-70％ 良，69-60％ 可，59%以下 不可								
(5)履修上の注意	内容によって，授業日程や開催場所を変更することがある。 履修に当たっては，自らの研究課題を考慮し，指導教員と相談の上で決定すること。								
(6)質問,相談への対応および連絡先	オフィスアワー：担当教員への質問・連絡方法は，各自担当教員と相談して決定すること。 なお，別表「担当教員のオフィスアワー」を参照すること。								
(7)成績評価の基準	「卓越している」：(1)研究課題，(2)理論的枠組み，(3)授業内容と専門性，(4)研究の意義，のすべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表，討議，およびレポート構成が実現できた上で，(1)～(4)のうち 3 つ以上について発展的な発表，討議，およびレポートが実現できている。 「かなり上である」：上記(1)～(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表，討議，およびレポート構成が実現できた上で，(1)～(4)のうち 2 つについて発展的な発表，討議，およびレポートが実現できている。 「やや上にある」：上記(1)～(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表，討議，およびレポート構成が実現できた上で，(1)～(4)のうちいずれか 1 つについて発展的な発表，討議，およびレポートが実現できている。 「水準にある」：上記(1)～(4)すべてについて先行研究の成果と限界に基づいた発表，討議，およびレポート構成が実現できている。								
(8)事前事後学習の内容について	【事前学習】質疑応答・討論のための資料を準備すること。また，研究課題に関連した文献等を，図書館等で検索・収集し，研究課題の設定の仕方や研究方法論に着目して要約したり，吟味したりすること。 【事後学習】質疑応答・討議を通じて生まれた課題について，事後に各自で調べて再検討すること。 この授業は45 時間の学修を必要とする内容であるため，30 時間以上の時間外学習が必要となる。								
【教科書】	指定しない								
【参考書】	指定しない								